

■6月15日

セントレア、LCC専用ターミナル建設計画、凍結を検討

(読売新聞によると)

中部国際空港会社は、格安航空会社(LCC)専用ターミナルの建設計画を凍結する検討に入った。

専用ターミナル建設を求めたLCCのエアアジア・ジャパンを巡り、大株主のANAホールディングスとエアアジア(マレーシア)が合弁解消も含めた協議に入り、当初計画通り運航するかどうか見通せなくなったためだ。

空港会社は6月中にも専用ターミナルの設計を発注、2014年夏の完成を目指していた。しかし、ANAとエアアジアから、エアアジア・ジャパンの資本関係や運航計画などについて、明確な回答が得られていない。

専用ターミナル建設は、総事業費が約80億円に達する。計画通りの運航が長期間続く保証が得られなければ、2400億円を超える累積債務を抱える空港会社の財務体質を悪化させる恐れがある。

(読売新聞)6/14

<http://www.yomiuri.co.jp/atmoney/news/20130614-OYT1T00232.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/atmoney/news/20130614-OYT1T00232.htm>)

PEACH(LCC)、新石垣空港へ就航

ピーチ・アビエーションは14日、国内 7路線目となる、関空—石垣線に就航した。新石垣のLCC就航は初めて。片道運賃は6190～2万6990円。16日まで期間限定で3980円から提供する。低運賃で観光客の需要を掘り起こす。関空からの初便は 175 人、復路の石垣からは145人が搭乗した。

同路線は、1日1往復でスタート。井上慎一最高経営責任者(CEO)によると、目標とするロードファクターは70から75%で、増便については需要動向を見て柔軟に対応していきたいという。

(沖縄タイムス)6/14

http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-06-14_50467 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-06-14_50467)

(aviationwire)6/14

<http://www.aviationwire.jp/archives/21930> (-> <http://www.aviationwire.jp/archives/21930>)

石垣—那覇線、離島割引運賃問題

スカイマーク社の新規参入に伴って沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業が適用されず、石垣—那覇路線の離島割引運賃が7月10日以降、現行の9400円から1万6100円(夏季)に引き上げられる問題で県は13日、石垣市役所で中山義隆市長や市議らに適用できない理由を説明した。離島割引運賃は、離島民の生活の足であり、当日航空券を購入できること、変更が可能な適正価格が重要であり、適用除外と運賃の引き上げにどう対応するのか、注目されている。

八重山毎日によると、事業の適用保留の理由について県は「離島住民が当日購入可能な離島割引運賃が航空会社間で競争状態にあり、低減化するため」と説明。事業を継続した場合には、民間企業の公正で自由な競争を阻害することになり、同一路線で特定企業のみにも公的支援することの是非が問われかねないという。

県によると、スカイマーク社は石垣路線参入に際し、県の補助制度の撤回を要求していることから、県の事業の適用を継続すると、撤退する可能性があるほか、参入コストについて損害賠償を求められるおそれもあるという。

*6月現在航空運賃

	当日購入	前日購入	3日前購入
スカイマーク	5000円	5000円	5000円
ANA	16,100円	4,900-6,900円	4,800-6,500円
JTA	16,100円	4,900-10,800円	4,800-6,500円
RAC	16,100円	4,900-10,800円	4,800-6,500円

(八重山毎日)6/14

<http://www.y-mainichi.co.jp/news/22655/> (-> <http://www.y-mainichi.co.jp/news/22655/>)

新日本航空、新潟—佐渡、7月末まで運休を延期

新日本航空は14日までに、今月末までの新潟—佐渡線計画運休を7月末まで延長することを決めた。英国製の部品の修理が遅れているため。2月末から続く運休の延長は7回目となる。

同空路は英国製の小型航空機1機で運航している。

2月末の自主整備で機体のショックを緩和する脚の部品に不具合が見つかったが、部品の調達があまくいかず、5月に英国のメーカーへ修理に出していた。当初は6月上旬にも修理が終わる見込みだったメーカーより「修理は終わったが、検査機器が不調で遅れている」と説明されたという。

(新潟日報)6/14

<http://www.niigata-nippo.co.jp/news/national/20130614048914.html> (-> <http://www.niigata-nippo.co.jp/news/national/20130614048914.html>)

エアバスA350XWB、初試験飛行

(-> http://www.jiji.com/jc/c?g=int_30&k=2013061400915&p=0130614at78&re=pv)

エアバスの次世代中型機A350が14日午前、初の試験飛行のためフランス南西部トゥールーズのブランヤック空港を飛び立った。A350は米ボーイング787の競合機と位置付けられており、エアバスは次週パリで開催される国際航空ショーで「A350」数百機の受注を目指す。エアバスでは一年半以内にも試験飛行段階を終え、第1号機を2014年後半までには納品したい考えだ。

これまでに「A350」の受注が決定している航空会社は、カタール航空、英ブリティッシュ・エアウェイズ、など、これまでに33社から613機を受注している。

(AFP)6/14

http://www.afpbb.com/article/economy/2950391/10905910?ctm_campaign=txt_topics (-> http://www.afpbb.com/article/economy/2950391/10905910?ctm_campaign=txt_topics)

(時事ドットコム)6/14

http://www.jiji.com/jc/c?g=int_30&k=2013061400915 (-> http://www.jiji.com/jc/c?g=int_30&k=2013061400915)

セブ・パシフィック(LCC)、エアバスA330-300、初のワイドボディ引き渡し

セブ・パシフィック航空が新たに調達したエアバスの大型旅客機A330—300の1機目が、現地時間12日にフランス南部トゥールーズで引き渡された。セブ航空が客室に通路が2本あるワイドボディ機を導入するのは同機が初めて。14日付マニラタイムズなどが伝えた。

今回引き渡された機材は、米国に本拠を置くCITエアロスペースとのリース契約を通じて調達したA330型機4機の中の1機。来年第2四半期(4～6月)には4機全ての引き渡しが完了する見通しだ。座席数(エコノミー436席)はこれまで納入された330型機で最多となり、機内では無線ブロードバンド技術のWiFi(ワイファイ)を使用したインターネット・サービスの利用が可能となる。

同社では、A330型機はマニラ—シンガポール、仁川を結ぶ中距離路線に投入。その後は、10月7日に就航予定のマニラ—ロードバイを結ぶ直行便など、長距離路線で使用する計画。

(NNA ASIA)6/15

<http://news.nna.jp/free/news/20130617php001A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130617php001A.html>)